

履 歴 書

No.

写真貼付欄

(3×4)

最近3ヶ月以内に撮影のもの
(スナップ写真は不可)

2023年7月22日現在

	しがき こういちろう
氏 名	志柿 浩一郎 印
ローマ字	Shigaki Koichiro
生年月日	1984年 8月 11日生 満 38歳

外国籍の場合は国籍を記入してください。		国籍
現職	所属機関名 東洋大学 部局・職名 社会学部メディアコミュニケーション学科・准教授	
現住所	〒 TEL () 携帯電話 ()	
Eメール	kshigakijp@yahoo.co.jp	
連絡先 (上記と異なる場合)	〒 TEL ()	

学 歴			
高等学校以降を記入し、入学・編入学・卒業・修了・退学・単位取得満期退学等を区分してください。			
年	月	内 容	入学・卒業等区分
2000	4	宮城県宮城野高等学校	入学
2001	3	同上 転出	転出
2001	4	宮城県仙台第一高等学校編入	編入
2003	3	同上 卒業	卒業
2003	4	Grays Harbor College (Aberdeen, Washington, U.S.A.), Spring Semester 入学	入学
2003	6	同上 転出	転出
2003	8	City College of San Francisco (San Francisco, California) 編入	編入
2005	12	同上 卒業, Associate in Arts (General Studies)	卒業
2006	1	San Francisco State University, College of Creative Arts (San Francisco, California) 編入	編入
2008	1	同上 卒業 Bachelor of Arts (Television and Radio)	卒業
2009	4	東北大学大学院・情報科学研究科・博士課程前期 2年の課程・人間社会情報科学専攻・メディア情報学講座 入学	入学
2011	3	同上 修了	修了
2011	4	東北大学大学院・情報科学研究科・博士課程後期 3年の課程・人間社会情報科学専攻 メディア情報学講座 進学	進学
2014	3	同上 修了	修了
2011	8	Temple University, School of Media and Communication (Philadelphia, Pennsylvania) 東北大学交換留学制度による大学院留学	留学
2012	5	同上 修了	留学修了

専攻分野	メディア研究、メディアコンテンツ制作、アメリカ研究	
所属学会等	人間の安全保障学会 (JAHSS) the International Association for Media and Communication Research American Studies Association International Communication Association アメリカ学会 社会情報学会 日本メディア学会 (旧日本マス・コミュニケーション学会)	
学会及び社会における活動等 (専攻、研究分野等に関連した事項についてのみ記入ください)		
年	月	内 容
自 2017 至 2017	11 11	アメリカの放送の過去、現在、未来 情報提供 第 24 回京都メディア懇話会
自 2018 至 2018	3 3	公平原則と平等時間の原則：アメリカの放送政策史再考 同志社大学アメリカ研究所第二部門研究会 早稲田大学アメリカ法判例研究会・同志社大学アメリカ研究所第二部門研究会
自 2018 至 2019	1 7	日本マスコミュニケーション学会 英文雑誌 Asian Journal of Journalism and Media Studies 編集委員
自 2022 至 2022	10 10	アメリカ公共放送前史: 1930 年代放送メディアの教育機能を巡る議論から公共放送 設立機運が高まるまで 早稲田大学 20 世紀メディア研究所 第 160 回研究会
教育実績の概要	常勤職(通算) 7 年 月 非常勤職(通算) 1 年 月	
同上主要担当科目	映像メディア制作、メディアコミュニケーション学演習及び基礎演習、ジャーナリズム論、メディア倫理法制論、ビジネス英語、英語プレゼンテーション、英会話実践、比較言語文化論など	

研究業績の目録

氏名 志柿浩一郎

No. 1

研究業績					
著書・論文 学会発表の別 (査読の有無)	単著 共著 の別	書名・論文名・発表題目名 (共著の場合、編者名・共同執筆者名等を含む)	掲載誌名・巻号・頁 学会大会名等	発行所又は 発表場所	発行又は 発表年月
博士 学位論文	単著	「米国における非営利メディアの歴史— 米国 Public Broadcasting 形成過程の再 検討—」	東北大学大学院情報 科学研究科	東北大学	2014年3 月
著書	単著	『アメリカ公共放送の歴史: 多様性社会 における人知の共有を目指して』		明石書店	2020年 10月
著書	共著	松浦さと子編『日本のコミュニティ放 送: 理想と現実の間で』	「大学が関わるコミ ュニティ放送」の章 (119-131 頁) を分 担執筆	晃洋書房	2017年6 月
著書	共著	坂田邦子、三村泰一編『被災地から考 える3・11とテレビ』	「震災と報道をめぐ るメディアスタディ ーズ」の章 (199- 233 頁) を分担執筆	サンパウロ	2016年3 月
論文	単著	“The First Female FCC Commissioner in America: What a Second Look on Her Media Policy Reveals?” 査読あり	東洋大学社会学部紀 要 60(2) 63-80 頁	東洋大学社 会学部	2023年3 月
論文	共著	“Waves of Feminism vs Flow: An Alternative Approach to Identifying Cases of Gender Norm Advancement” (Christine Winskowski と共著) 査読 あり	北里大学一般教育紀 要 (26) 61-85 頁	北里大学一 般教育部	2021年3 月
論文	単著	“The American Ideal of Media’s Role Beyond Commercial Broadcasting: The History of the Dispute over Public Interest and the Educative Role of Media” 査読あり	同志社アメリカ研究 (56) 27-59 頁	同志社大学 アメリカ研 究所	2020年3 月
論文	単著	「アメリカ第一主義を掲げたローレン ス・デイリーの「放送の公平性」論と 「イコールタイム・ルール」改正」査読 あり	同志社アメリカ研究 (55) 1-29 頁	同志社大学 アメリカ研 究所	2019年3 月
論文	単著	「アメリカ公共放送史における Frieda Henock の思想的遺産」査読あり	『社会情報学』 5(2) 19-36 頁	日本社会情 報学会	2016年
論文	単著	「アメリカ放送発展史における非営利 放送の役割」査読あり	『比較文化研究』 (118) 103-114 頁	日本比較文 化学会	2015年 10月
論文	単著	「アメリカ公共放送の理念 -放送にお ける多様性の確保」査読あり	『論纂』(青森公立大 学紀要) 1(1) 39-54 頁	青森公立大 学	2015年9 月
論文	単著	“Hip Hop and Roots: The Study of the New York Born Dance Culture” 査読あ り	『メディア・記号・ 芸術』 (4) 1-13 頁	東北大学	2012年3 月
学会発表	単独	Can Explanatory Journalism Revitalize News Agencies in Japan and Elsewhere? A Cross-National Comparison of Digital Journalism in Japan and Other Democratic Nations	International Association For Media and Communication Research	Lyon, France	2023年7 月
学会発表	単独	Explanatory Journalism の課題と未来: デジタル化社会における知識共有	社会情報学会東北支 部研究発表会	非対面: 秋 田県立大学	2023年2 月

学会発表	単独	アメリカ公共放送前史: 1930年代放送メディアの教育機能を巡る議論から公共放送設立機運が高まるまで	早稲田大学 20世紀メディア研究所 第160回研究会	早稲田大学	2022年 10月
------	----	--	----------------------------	-------	--------------

研究業績の目録

氏名 志柿浩一郎

No. 2

研究業績					
著書・論文 学会発表の別 (査読の有無)	単著 共著 の別	書名・論文名・発表題目名 (共著の場合、編者名・共同執筆者名等を含む)	掲載誌名・巻号・頁 学会大会名等	発行所又は 発表場所	発行又は 発表年月
学会発表	単独	How Can We Best Share Collective Memories of Adversity with the World? - Case Studies on the Discourse of Controversial History, and the Significance of Archive and Museum Design	Japan Association for Human Security Studies - Japan Society for International Development Joint International Conference	東京大学駒場キャンパス	2019年 11月
学会発表	単独	The popular comic book Heroine, the first female commissioner of FCC, & Unseen Feminism Movement in the 1930s to 1950's	International Association For Media and Communication Research	Madrid, Spain	2019年 7月
学会発表	単独	自由と公正性：アメリカのメディア法制史	社会情報学会東北支部研究会	東北大学	2019年 3月
学会発表	共同発表	[Presentation] How Can We Utilize Lessons from the Past?: The Nuclear Power Discourse in U.S. and Japanese Education,” Tomoko Kanayama, [Panel] From Hiroshima to Fukushima: Redesigning Communication Processes for Nuclear Crisis	International Association For Media and Communication Research 2018	Eugene, Oregon, USA	2018年 6月
学会発表	単独	Frieda Hennock’s Media Policy in 1950’s: Underrated yet Still Significant.	International Association For Media and Communication Research 2017	Cartagena, Colombia	2017年 7月
学会発表	単独	第一部『被災地から考える 3.11 とテレビ』出版報告会 「震災と報道をめぐるメディアスタディーズ」	社会情報学会東北支部研究会	東北大学	2016年 3月
学会発表	単独	アメリカ初の女性 FCC 委員フリーダ・ヘノックとアメリカの放送	第49回アメリカ学会年次大会	国際基督教大学	2015年 6月
学会発表	単独	アメリカと日本の放送における教育概念	社会情報学会東北支部研究会	新潟大学	2015年 3月
学会発表	単独	大学付属教育放送局から公共放送組織へ -Frieda Hennock・Ford Foundation・Carnegie Commission が果たした役割-	日本マスコミュニケーション学会年次大会 秋	東洋大学白山キャンパス	2014年 11月
学会発表	単独	米国における放送概念の教育的ルーツ	社会情報学会・学会大会	京都大学	2014年 9月
学会発表	単独	放送は『知識の共有 (Education)』だった：米国非営利メディア発展史再考	社会情報学会東北支部研究発表会	東北大学	2014年 3月

学会発表	単独	米国型商業ラジオ放送の発展と非営利教育ラジオ放送—米国のラジオ放送発展期の再検討	第 233 回メディア史研究会	日本大学法学部	2013 年 10 月
------	----	--	-----------------	---------	-------------

研究業績の目録

氏名 志柿浩一郎

No. 3

研究業績					
著書・論文 学会発表の別 (査読の有無)	単著 共著の別	書名・論文名・発表題目名 (共著の場合、編者名・共同執筆者名 等を含む)	掲載誌名・巻号・頁 学会大会名等	発行所又は 発表場所	発行又は 発表年月
学会発表	単独	米国ラジオ放送史の再検証と、インターネット時代におけるその意義 —米国の情報を巡る権力と権利の相克に着目して	社会情報学会・学会大会	早稲田大学	2013年9月
学会発表	単独	“Who Finance the Media Arts Center and for What Purpose? A Study on Philosophical and Management Foundation of Public Support for Citizens' Media Creation in the U. S”	American Studies Conference 2011 Tokyo Sponsored by The America-Japan Society, Supported by The Embassy of the United States of America	一般社団法人日米協会、東京都港区	2011年9月
その他	単著	第 53 回 ネガティブな経験を交えた考察：地道な歴史研究のための環境整備の重要性	『Intelligence』購読会員専用ブログページ	早稲田大学 20 世紀メディア研究所	2023年3月
その他	単著	米国の放送史初期事情	メディア用語基本事典第 2 版（渡辺武達、金山勉、野原仁編著）	世界思想社	2019年5月
その他	単著	「第 10 章 アウトリーチと英語」「第 11 章 英語での会話」「第 12 章 自己紹介と対話」「第 13 章 英語でのプレゼンテーション」「第 14 章 付属資料」	アウトリーチ実習（編者 石浦章一） 53-87	同志社大学	2018年8月
その他	単著	放送の公平原則を超えて：F. Hennock の描いたアメリカの放送の未来	同志社アメリカ研究 (53) 61-83 頁	同志社大学アメリカ研究所	2017年3月

外部資金の獲得実績

外部資金獲得状況（科研費）

研究種目等の名称、代表・分担等の別、研究課題名、採択年度、交付金額の順に記載すること

1. 若手研究、代表、IT時代の米国公共放送: 情報媒体の転換期における理念・制度・運営態勢の変化、2020年度～2023年度（Covid-19の影響を受け、延長）、総額 299 万円
2. 若手研究 B、代表、アメリカ女性史・放送史における Frieda Hennock の思想と行動の再評価、2017年度～2022年度（Covid-19の影響を受け最終年度を延長）、総額 273 万円
3. 基盤研究 B、研究分担者、日本型コミュニティ放送の成立条件と持続可能な運営の規定要因、2012年度～2015年度、配分 10 万円

外部資金獲得状況（科研費以外）

研究種目等の名称、代表・分担等の別、研究課題名、採択年度、交付金額の順に記載すること

1. 平成 27 年度公益財団法人放送文化基金・人文社会・文化部門助成金、代表、「米国における公共放送理念の形成過程に関する研究 -Ford 財団の関与を中心に-」2015 年度（平成 27 年度）、90 万円
2. 平成 26 年度公益財団法人放送文化基金・人文社会・文化部門助成金、代表、「東日本大震災におけるテレビ報道と被災者に関する研究」共同プロジェクト代表 2014 年度（平成 26 年度）、135 万円
3. Harvard University, Radcliffe Institute of Advanced Studies, Schlesinger Library Research Support Grants, “Re-evaluating Philosophy of Frieda Hennock Behind Promoting Educational Broadcasting: Its Implications for Media’s Role in the Society of Diverse Cultures Today” 2015-2016, \$2700（代表）
4. 2011 年度 社団法人日米協会 米国研究助成プログラム 2011、代表、“Who finance the Media Arts Center and for What Purpose?-A Study on Philosophical and Management Foundation of Public Support for Citizens' Media Creation in the U. S.” 2011 年度、\$3500
- 5 文教大学 研究費:（研究代表者 文教大学情報学部メディア表現学科准教授 酒井信）「原爆災害に関する集合的記憶のメディア展示とその伝承に関する比較研究とその研究成果の英語による公表」分担者:志柿浩一郎 2018 年度、分担総額 15 万円